

「ものづくりの集積地東海地域」に 実践力を身につけた人材を輩出する

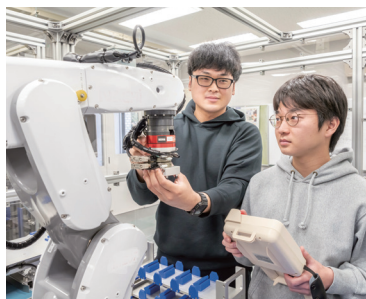


東海職業能力開発大学校

設置・運営 ● 独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構
所在地 ● 岐阜県揖斐郡大野町古川1-2
訓練課程 ● 応用課程：生産機械システム技術科・生産電気システム技術科・生産電子情報システム技術科／専門課程：生産機械技術科・電気エネルギー制御科・電子情報技術科



開発課題の成果物「アスパラガス出荷調整機」



生産ロボットシステムコースでの授業風景

東海職業能力開発大学校（東海能開大）は、全国の職業能力開発大学校10校のうちの1校で、東海地域（岐阜県）にある。また、附属校として浜松職業能力開発短期大学校（静岡県）がある。これまで40年以上で5000人を超える学生を育成し、東海地域を中心としたものづくり関連企業に実践力を身につけた人材を送り出している。

基本理念

本校は、厚生労働省所管の省庁大学校であることから独自の教育訓練システムを持っている。4年間1課程である大学とは異なり、2年+2年の2課程に分かれていることが特徴で、最初の2年間（専門課程）で実践技術・技能者の育成、後の2年間（応用課程）で生産技術・生産管理部門のリーダーとなり得る人材を育成するという異なる育成像を掲げている。

就職先企業へのアンケート調査結果によると、本校の修了生は技能・技術面で高い評価を得ており、「技能面で特に優れており、機械の扱いに慣れている」「加工・計測等の作業を自分たちで工夫しながらできる」等の意見をいただいている。また、学生は本校あての専用求人で90%程度就職先が決まることから、目的意識を持って就職先を選定できていることが読み取れる。また、就職して3年後の企業定着率は83.6%（令和6年度調査結果）と非常に高いこ

とが強みである。本校に入校する学生は、「ものづくりに携わる仕事をしたかった」「技能・技術を身につけたい」という思いを持っている者が多い。

本校の教育訓練の特徴

① 実験実習を重視したカリキュラムとなっており、授業時間の約65%が実習となっている。これにより理論と技能・技術、双方を効果的に学習できる内容となっていること。

② 少人数制（各科定員が20〜25名）で、きめ細やかな指導ができる体制が整っており、退校率が低いこと。

③ 実際の企業で製品開発等に利用される最新鋭の設備を保有しており、その環境下で教育訓練を行うことで、企業において必要とされる技能・技術を習得できること。

④ 就職率は、関連企業に毎年ほぼ100%と非常に高く、東海地域の自動車関連企業など多くのものづくり企業に就職していること。

特に、応用課程2年で実施する開発課題実習では1年間かけ、企業の課題解決につながる機器を機械・電気・電子情報の異なる3科の学生がグループとなって開発する。昨年度の一例として、「アスパラガス出荷調整機」を開発した。これら機器の開発の中で、ものづくり関連企業で働く際に不可欠な異なる専門性を持つ者との協働作業を体験することとなる。限られた時間の

中でコミュニケーションをとりながら自然と自分の役割を理解し、考えて進めていく素養が身につく。

本校が重視している技術分野

本校では、生産現場に多く導入されている産業用ロボットを複数所有し、教育訓練に力を入れている。ロボットを作るのではなく、ロボットを活用した自動化システム構築ができるSOP（システムインテグレータ）の育成に力を入れている。ロボットを用いたシステムの企画・開発から生産工程の改良・改善・運用・管理などに対応できる、高度な実践力を身につけた人材やシステムインテグレータのエンジニアを育成するコースとして、応用課程に生産ロボットシステムコースを併設している。

今後の展望

東海地域は、地の利がある。製造業の拠点が数多くあり、新産業のイノベーションと深化も期待されているところである。興戸正純校長は、「修了生にはこれまで本校で修得した技能・技術を武器にし、自信を持って『ものづくり』産業を支える若い力となるよう、期待している」と、これまで以上に夢を膨らませている。

本校は、今後も東海地域のものづくり関連企業に実践力を身につけた人材を輩出することで、引き続き地域に貢献をしていきたい。